

経済透視

(96)

新型コロナウイルスワクチンは、ウイルスの発見からわずか1年足らずという異次元のスピードで米ファイザーと米モーデルナによつてそれぞれ実用化され、パンデミックの早期平常化に多大な貢献を果たした。メッセンジャーRNA(mRNA)が最初に実用化されたのが、この二つのコロナウイルスワクチンだ。

mRNAワクチンの実用化へ至る重要な基礎技術を発見したペンシルベニア大学のカリ



SMBBC日興証券
プライベート・
ソリューション室

高橋 政治

固形がん向け開発急増

以外の感染症でも、実用化に向けた開発が最終段階にあるパイプラインが存在している。開発件数はコロナ禍以降急増しており、19年後年の近い将来に市場投入され、患者の選択肢が広がるものと考

えられる。また、感染症以外で研究開発の一大ブームになっている。mRNA医薬品の中でも、最も開発件数が増加しているのが、感染症予防ワクチンや癌治療ワクチンなど、新型コロナ

projects)で

あつたが、23年10月時

点ではその約10倍の1

58件(同)にまで急

増している。

年でのグローバルでの

開発件数は16件(非臨

床試験以上の開発段階

増加しているのが、感

染症予防ワクチンの領

数、出所Pharma

Co氏およびワイスマン

氏がその功績により2

023年ノーベル生理学・医学賞を受賞したのは記憶に新しい。ヒトで有効に機能し、大量供給面でも問題がないことが新型コロナワクチンで実証されたことから、現在mRNA医薬品が世界の医薬品

では35件(同)にまで

体内で安定してなんば

く質生成を誘導するた

めの技術、副作用の軽

減を志向した免疫原性

に対するmRNA治療

薬だ。これらの多くは

mRNAにがん組織の

一部を作らせること

に対するmRNA治療

グラムは、ヒトでの有

効性を確認する「フェ

ラーズII」試験段階で、

mRNAの医薬品開発

数年先には新たな作用

機序を有するがん治療

チームは独自のmRN

Aに関する技術基盤を

法として臨床現場に登

場する可能性がある。

mRNA医薬品はよ

うやく実用化に至った

段階で、まだ技術改良

を削る。これまで有効

の余地は大きい。性能

を高める要素技術とし

て、体内の狙った箇所

に届けるための送達技

術、発現効率をより一

ることに期待したい。

(隔週水曜日に掲載)

無断転載・複写禁止